

代 表 者

視 察 報 告 書

令和元年8月2日

会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

沖 田 範 彦

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和元年7月30日（火）

2. 調査項目

石川県輪島市 次世代交通対策事業について

3. 参加議員

沖田範彦議員

石川県輪島市

■調査項目

次世代交通対策事業について

■調査対応者

輪島商工会議所 坂下利久専務理事

■調査期日

令和元年7月30日(火) 9時30分～

■調査目的

呉市における次世代型交通の導入

■視察内容

輪島市は能登半島北西部に位置する人口約2万7,000人のまちで、日本の原風景を保有保存する地として、世界農業遺産「能登の里山里海」に認定され、また、輪島の朝市、1,004枚の白米千枚田、伝統工芸品である高級輪島漆器、北前船寄港地、キリコ燈籠祭り等で魅力を発信し、多くの観光客を呼び寄せています。

ただ、どこも同じで、人口減少、高齢化の傾向の流れの中にあり、空き家等の問題を抱えている。また、鉄道の廃止等により公共交通機能が低下し、コミュニティーバスが市内を循環しているが、よりきめ細やかさを追求するため、市はバス停から半径500メートル以上を公共交通空白地域と定義し、その解消を課題として掲げた。

こうした問題への対応として、実情に合わせた次世代交通システムを導入し、「地域の高齢者の外出を目指す」、「商店街の活性化」、「観光客の利便性向上」を目指した。商工会議所が主体となって、ゴルフカート活用した「WA-MO (ワーモ) wajima small mobility」という愛称で、平成22年より取り組みを始めた。

この事業は商工会議所に新たな事業として行われ、国の認定(産総研、平成28～30年の3年間)を受けたり、ヤマハ発動機の協力支援、エコモ財団の認定を得ながら、取り組み当初は4人乗り2台からスタートし、現在は4人乗り4台、7人乗り2台の電動カートを運行している。当初は2地区での運行から現在は9地区での運行を行っている。

運行に当たっては、当初、商工会議所職員が乗車していたが、現在は市のシルバー人材センターに依頼している。乗車料金は無料であり、運転資格は普通運転免許でよいとのことであった。

運行時間は10時～15時と8時～17時であり、利用者はこの3カ月で4,000人、年間1万人を超えると見込んでいる。利用者の内訳は、当初7割が観光客であったが、今では7割が市民となっており、利用者数の増加とともにますます市民の「足」として活用されるようになってきている。

■呉市での展開の可能性

呉市においても、公共交通の見直しも行われる中、より市民に密着した移動手段が検討されるようになりつつあり、近い将来には、必然的に導入されていくことは明らかです。このような次世代型の交通手段を導入することにより、高齢者、観光客の利便性向上に、また、まちが活気づき、より明るくなることにつながると確信できます。早期に検討していかねばならないことだと思います。